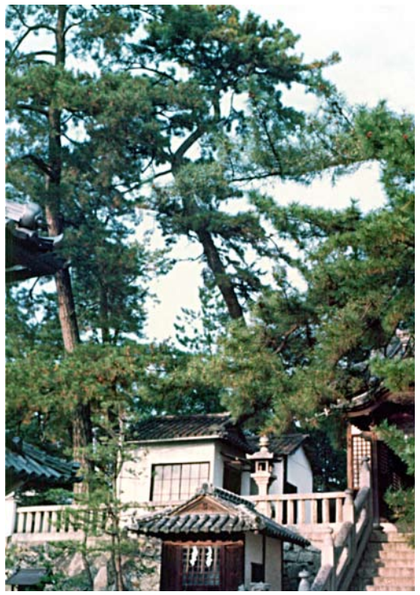
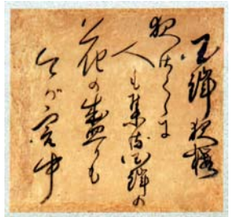
❶鶴﨑の松

「常磐樹の　なかにもめだつ　鶴﨑の
今ひとしほの　春の色かな」

鶴﨑神社の境内には昭和五十一年頃まで、松の巨木が林立しており、明治の頃は昼間でも境内が薄暗い程であったという。

都窪郡誌にも「境内老松鬱茂す」と記されている。当時は荘厳な神域であった事であろう。その松も松食い虫の被害に遭い、昭和五十年から五十二年にかけて伐採されたが、拝殿石段脇の二本は手厚く守られている。


鶴﨑神社の松（昭和 40 年代）



❷国鉾の夜桜

「夜ざくらに　人も集まる　国鉾の
夜の盛りも　今が最中」

国鉾神社の境内には明治の中頃には、松を始めとする各種の樹木が生い茂り鬱蒼とした鎮守の杜であった。

桜の木も多く植えられており、桜の名所として多くの人が夜桜見物に来ていたのであろう。

現在も桜の花見は行われているが、境内を真っ赤に染める霧島ツツジや藤も有名で、遠方からも見物の人が訪れる。

国鉾神社の霧島ツツジと八重桜

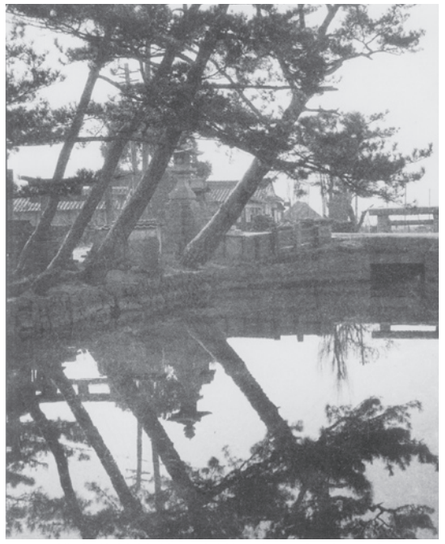
❸舟本の入舟

「帆をあげて　おいてにまかす　浦舟の
はやしまかげに　着きにけるかな」

明治の頃の船便は、児島湾から倉敷川に入り、彦崎で二百石程度の小さな舟に荷を積み替えて、汐入川を上って船本の荒神社あたりの舟溜まりへ着いていた。

特産のイ草や薪炭、肥料など各種の生活物資を輸送しており、舟溜まりは活気を呈していた。

舟溜まりは、弁才天にもあったようだが、当時の大量輸送手段は、舟が主流であったことが窺える。


船本荒神社前の舟溜まり（大正 12 年）

❹祇園の夕景

「吹く風も　なくて涼しき　祇園会の
海原遠く　移る月かな」

塩津の龍神社の境内神社に祇園神社がある。「祇園」とはこの祇園神社のことである。

祇園神社は、龍神社と共に龍王山の頂上に鎮座していたが、昭和四十二年に山を削り平地にして、社殿を現在の地に移した。

龍神社の境内にも松の大木が茂り、遠く常山の山々まで見渡せ、風光明媚な所であった。

明治の当時は山上からの夕景が美しかったであろう。

龍王山の頂上に鎮座していた頃の龍神社